

1923年9月1日  
11時58分、  
関東大地震が発生した。

ストーリー  
大 正デモクラシーの喧騒の裏で、マスコミは、政府の失政を隠すように「...」をこめて「...いずれは社会主義者か、鮮人か、はたまた不逞の輩の仕業か」と世論を煽り、市民の不安と恐怖は徐々に高まっていた。そんな中、朝鮮で日本軍による虐殺事件を目撃した澤田智一(井浦新)は、妻の静子(田中麗奈)を連れ、智一が教師をしていた日本統治下の京城を離れ、故郷の福田村に帰ってきた。同じ頃、沼部新助(永山瑛太)率いる葉売りの行商団は、関東地方へ向かうため四国の讃岐を出発する。長閑な日々を打ち破るかのよう、9月1日、空前絶後の揺れが関東地方を襲った。木々は倒れ、家は倒壊し、そして大火災が発生して無辜なる多くの人々が命を失った。そんな中でいつしか流言飛語が飛び交い、瞬く間にそれは関東近縁の町や村に伝わっていった。2日には東京府下に戒厳令が施行され、3日には神奈川に、4日には福田村がある千葉にも拡大され、多くの人々は大混乱に陥った。福田村にも避難民から「朝鮮人が集団で襲ってくる」「朝鮮人が略奪や放火をした」との情報もたらされ、疑心暗鬼に落ち入り、人々は恐怖に浮足立つ。地元の新聞社は、情報の真偽を確かめるために躍起となるが、その実体は否としてみかねないでいた。震災後の混乱に乗じて、亀戸署では、社会主義者への弾圧が、秘かに行われていた。

イントロダクション

関 東大震災の発生からわずか5日後の9月6日のこと。千葉県東葛飾郡福田村に住む自警団を含む100人以上の村人たちにより、利根川沿いで香川から訪れた葉売りの行商団15人の内、幼児や妊婦を含む9人が殺された。行商団は、讃岐弁で話していたことで朝鮮人と疑われ殺害されたのだ。逮捕されたのは自警団員8人。逮捕者は実刑になったものの、大正天皇の死去に關連する恩赦ですぐに釈放された。これが100年の間、歴史の闇に葬られていた「福田村事件」だ。

行き交う情報に惑わされ生存への不安や恐怖に煽られたとき、集団真理は加速し、群衆は暴走する。これは単なる過去の事件では終われない、今を生きる私たちの物語。

100年の時を超え、

遂に、実話に基づいたかつてない

日本映画が公開される。



企画：荒井晴彦 企画協力：辻野弥生、中川五郎、若林正浩 統括プロデューサー：小林三四郎 プロデューサー：井上淳一、片嶋一貴 アソシエイトプロデューサー：内山太郎、比嘉世津子 音楽：鈴木慶一 撮影：桑原正  
照明：豊見山明長 録音：白井勝 美術：須坂文昭 装飾：中込秀志 衣裳：真柴紀子 ヘアメイク：清水美穂 編集：洲崎千恵子 助監督：江良圭 ステール：佐藤芳夫 メイクアップ：綿井健陽 美術監督：磯見俊裕  
キャスティング：新井康太、東山光宏 クラウドファンディング・寄付：越智あい 宣伝：山口慎平 大塚宣伍、松井寛子 宣伝デザイン：100KG 特別協力：真宗教団連合 集英社 協力：東映京都撮影所 松竹撮影所 モノポライズ  
©スバル文化庁文化芸術振興費補助金(映画創造活動支援事業) | 独立行政法人日本芸術文化振興会 釜山国際映画祭 釜山国際映画祭 釜山国際映画祭 釜山国際映画祭  
This film won the NUTRILITE Award at the Asian Project Market 2023 of Busan International Film Festival. [2023年 | 日本 | DCP | 英語: SEPTEMBER1923 | 3.1ch | 137分]  
©「福田村事件」プロジェクト2023 配給：太秦 製作プロダクション：ドッグシユガー 製作：「福田村事件」プロジェクト(株式会社テンカロット、株式会社カタログハウス、辻野弥生、株式会社ビカンテナーカス、MBS、株式会社ドッグシユガー、太秦株式会社)



# 福田村事件

監督 森達也

脚本 佐伯俊道 井上淳一 荒井晴彦

出演 井浦新 田中麗奈 永山瑛太

東出昌大 コムアイ 木竜麻生 松浦祐也 向里祐香

杉田雷麟 カトウシンスケ ピエール瀧 水道橋博士

豊原功補 柄本明

関東大震災から100年  
いま見たことを、伝えたい

